



アル・カイールアカデミー第3分校

「学校で楽しく過ごしている生徒たちの顔を見て幸せな気持ちになりましたし、みんながより良い暮らしができればと思いました」
(10ページ 東葛センターだより)



JFSA 会報
バックナンバー



JFSA
ホームページ



JFSA
フェイスブック



JFSA
インスタグラム

【アル・カイールアカデミー近況報告】

国内事業担当事務局 入江 賢治

2025年2月4日～11日の期間で、事務局

3名のパキスタン派遣を行ない、アル・カイール
アカデミーの教育事業を視察しました。本校、カ

チラクンディ第2分校、第3分校、第8分校、メ
ディカルセンターを訪問し、案内は学校スタッフ
のサードさん、アサドさんにお願いしました。

本校

生徒数：2105名（午前・午後の部の合計）

教師数：99名（午前・午後の部の合計）

・以前は午後の部は5年生まででしたが6年生
まで拡大しました。

・短期のITコース（動画編集、グラフィック
デザイン）も開始しました。

・ロボット工学分野のプログラムの準備を進めて

います。



本校



本校での授業の様子



カチラクンディ第2分校の給食の様子
屋根が設置され日陰ができた

第2分校

生徒数：278名

教師数：16名

・全教室の設備（照明、扇風機、ハエ類の侵入を
防ぐ教室扉、机、教室の床）が改善されました。

・新しい教室が増設されました。図書室ができま
した。

・新しいトイレと手洗い場ができました。

・中庭に日除け用の屋根が設置され、給食時に日
陰で食事が取れるようになりました。

・遊び場（遊具）が設置されました。

・ロティ（平たいパン）を焼くタンドール窯を準
備しており、完成すれば温かいロティが食べられ
るようになります。

第8分校

生徒数：332名

教師数：14名

・在カラチ日本国総領事館の「パキスタン草の根・
人間の安全保障無償資金協力」を受けて建設され、
2020年11月に開校しました。

・当初、バローチ人（パキスタンの民族のひとつ）
の女子教育のためのキャンバスとして始まりま
したが、今ではバローチ人だけではなく様々な民
族の女子が通っています。生徒の家族は低賃金労
働者で学校近辺の家賃が安い地域に居住してお
り、学校がここになかつたら、外に出て通うとい
う選択肢はなかったそうです。

・授業は午前のみですが、希望する生徒は本校に
移動し午後も授業を受けています。コンピュータ

第3分校

生徒数：750名

教師数：31名

・サッカーフィールドを整備中です。

・野菜を栽培し、給食用の食材にも使用していま
す。

ーについて学びたい子が多いそうです。

- ・学校ではタンドール窯でロティ（平たいパン）を焼いています。生徒たちは低価格（1枚3ルピー・約1.5円）で買うことができ、学校に通う動機付けにもなっています。

- ・縫製技術科があり、6～7年生（11歳～12歳ぐら）の生徒約60名に加えて、生徒の親や姉妹も受講でき約40名が通っています。

- ・新たにバドミントンをするエリアを建設中です。



女子生徒が通う第8分校



第8分校での授業の様子

・現在はアル・カイールアカデミーカレッジの建物の1階にありますが、将来的には場所を移転して拡張する計画があります。



メディカルセンターとカレッジの建物

職業訓練コースを見学して

「チャンス（機会）と希望に出会う場

私はコロナ禍を経て約5年ぶりに、アル・カイールアカデミーを訪問しました。久しぶりに見る校舎は至るところで改装が行なわれていて、より良い環境や設備が整えられていました。壁はペンキで綺麗に塗られて明るい印象になり、新しい職業訓練コースのための教室や図書室ができるいました。ここで学ぶ子どもたちや先生、職員にとって有益で楽しい学舎となるようにすすんでいます。

す。



講師から説明を受ける
電気科の男子生徒

生徒が、今は先生を目指し、トレーニングとして教鞭をとっている姿を見ました。少年の頃の面影を残す彼に、ガンバレ！と心の中で思いました。見学の中で特に印象に残ったのは職業訓練コースです。これは通常の初等・中等教育のカリキュラム（算数、国語、理科、社会、英語等）とは別にあり、電気科や縫製科、ITリテラシーなど30のコースがあるそうです。通常のカリキュラムを受ける傍ら、希望する生徒が受講でき、仕事に結びつく知識や技術を身に付けられるようになっています。最初に見学した電気科のコースでは、6～7年生の男子生徒が5人程のグループに分かれ、クーラー等の家電製品やソーラーパネルの実物を使って、講師から仕組みの説明を受けていました。コースは6ヶ月間で、最終試験をパスすると、国の認定する修了証明書を受け取ることができ、就職にあたっても証明として役立つそうです。

- ・地域住民に無料で医療サービスを提供しています。
- ・最新の設備、高度な医療機器、熟練した医療スタッフにより、複雑な手術も実施されています。

次に見たのはＩＴリテラシー・プログラム（情報技術に関する知識や利用能力）です。カラチでは年々、ＩＴ関係の職種のニーズが高まっており、ＩＴリテラシーが雇用機会の拡大に必要とされています。教室では男子生徒と女子生徒が自分でプログラミングから作ったパソコンのゲーム（車をぶつけないように駐車場に停めるゲーム。クリアするごとに難易度が上がる）を次から次へと披露してくれて、とても誇らしげで楽しそうに見えました。



自分で作ったパソコンゲームを披露する生徒

女子生徒には縫製技術を学ぶための、6～7年生対象の縫製科のコースがあります。9カ月間のコースがレベルごとに3コース（初級、中級、上級）あり、終了するとそれぞれ証明書が発行されます。初・中級コースは学校、上級コースは州政府の修了証明書が発行されます。

職業訓練コースは在学中の生徒だけでなく、卒業生や生徒の親、地域住民に対しても門戸を開いており、この日も10人程の生徒の母親が縫製技術コースを受講していました。子どもたちはアラ・カイールで教育の機会を得ますが、その先に直面するのは仕事を得るという壁です。スマム地域に住む人々は、労働環境の悪い低賃金の仕事をや日雇いで日銭を稼いでいることが多いです。その現実から職業訓練コースでは、手に職をつけ実践的なカリキュラムが組まれ、生徒に働き口の紹介も行ない、安定した仕事に結びつくようサポートしています。従来からある電気・縫製コースに加えて、今は時代のニーズと生徒の関心に応えてＩＴ分野のコースの充実を図っています。教室で生徒たちに将来なりたい職業を聞く事がありました。「医者」「先生」「警察」「軍隊」「弁護士」それぞれの口から出た希望を聞くと、正直、叶えるのは難しいのではと感じる職業もありました。それについてサードさんに聞くとこのようないう希望を抱いても99%以上が実現できないでしょう。ただ医者でなくとも人を助ける医療に関わる仕事はたくさんあります。今、私たちにはアル・カイールメディカルセンターがあり、医療サービ



将来なりたい職業について話す生徒たち



写真右上：縫製科の女子生徒の刺繡作品



右下：図書室(本校)

スを地域社会に提供しています。将来的にこの病院を拠点にして「医療技術コース」を開設するビジョンを持っています。生徒たちは、医療に関する仕事は医者だけでなく様々な医療従事者（看護師、薬剤師、栄養管理士等）がいることを知りません。それを知ることが彼女たちのチャンスを広げ、医療従事者になる希望を持つて欲しいのです」医者になりたい彼女たちの夢が叶わずとも、その思いを紡いでチャンスと希望を持つて居る環境が実現してほしいと感じました。彼女たちの夢が実を結ぶためにも、P&Jカンパニーと連携して古着輸出入事業をすすめていきたいと思います。

洪水被災復興支援報告

カンパ総額:1143万8680円(個人の方 604人 団体 17)

<これまでの経過>

2022年8月 パキスタンの大洪水で国土の3分の一が水没し甚大な被害に見舞われました。アル・カイールは発災直後に被災地を訪問し、食料や物資の配布などの緊急支援を行ないました。その後も被災地の1つ、ブンド村を定期的に訪問して、村人と相談の上で住宅を再建する支援を行なうことに合意しました。

2022年12月 住宅再建のためにJFSAからカンパ金300万円(2010年の洪水被災復興支援カンパの残金)をアル・カイールへ送金

▶▶支援活動フェーズ1: ブンド村で20軒を再建

2023年6月 住宅再建を更に進めるためJFSAがカンパ活動を開始

2024年3月 カンパ金のうち500万円をアル・カイールへ送金

▶▶支援活動フェーズ2: ブンド村で4軒、周辺の村で20軒を再建(うち2軒が完成間近、それ以外の22軒は完成済み)

ブンド村の生活用水確保のため、離れた村の水源からパイプを引き貯水するタンク等の設置を支援



●これまでの支援費用 全てルピー表記: 1パキスタンルピー=0.53円)

費目	<フェーズ1> 20軒の住宅	<フェーズ2> 24軒の住宅 生活用水の支援	合計
カンパ金	5,869,727	9,093,288	14,963,015
セメント・砂	2,085,300	2,509,750	4,595,050
労賃	825,000	1,952,000	2,777,000
移動費(訪問・調査)	240,240	106,500	346,740
鉄(梁、ドア、窓含む)	1,185,410	2,734,280	3,919,690
屋根ブロック等	289,650	231,100	520,750
資材運搬(トラック)	43,500	75,000	118,500
トイレの便器	38,500		38,500
ベンキ	36,910		36,910
貯水タンク関係		1,520,250	1,520,250
源泉徴収税	48,722		48,722
銀行手数料	2,627	2,670	5,297
合計	5,098,709	9,131,550	14,230,259
残高	771,018	-38,262	732,756

*上記の会計報告には含まれていないまだ未精算の内容があります。今後も現地との確認の上、更新された情報をご報告して参ります。

*アル・カイールはJFSAとの被災地支援活動以外にも、アメリカのNGOの協力を得て被災地に50軒の住宅を再建しました。

*今後の支援活動の方針については、今年4月に予定している現地へのJFSA事務局派遣等を通して、アル・カイールのメンバーや被災地の人々と相談し進める予定です。

日本でのJFSAの皆さんのご協力で、これま
でに3つの村で行なってきた住宅の支援は
90%完了しています。またブンド村ではこれま
で遠く離れた村まで歩いて水を汲みに行く必要
がありました。離れた水源からパイプを引き、
貯水タンクを作ったおかげで、村の生活用水を
まかなうことができるようになつたことも大き
な変化です。村人は日々に皆さんへの感謝の気
持ちを言葉に表し、皆さんのが平安であることを
祈っています。

これまでの活動を振り返ると、都市部とは暮
らしも言葉も異なる村人たちとコミュニケーションを取り、信頼関係を作る事は容易ではあり
ませんでした。私たちは繰り返し現地を訪問す
ることにより、信頼関係を作り、今ではカラチ
にいても相談事などで頻繁に連絡をくれていま
す。

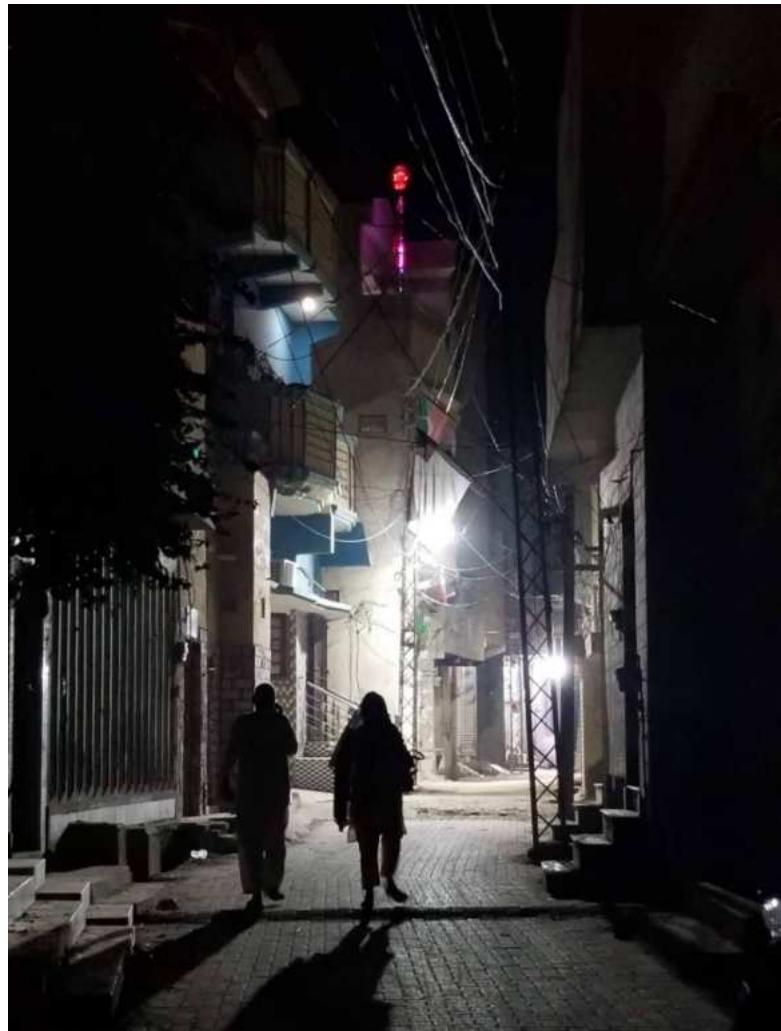
2022年の大洪水により一度は田畠が壊
滅状態になつたことで、カラチや都市部でも農作
物が全て値上がりし、現在もその状況は続いてい
ます。一方で、私自身は被災地を毎月1~2回
訪問しているのですが、現地では水も完全に引
き、環境は大幅に改善されました。大洪水以降、
ところは作物も順調に育ち、収穫できています。
これまでの活動を振り返ると、都市部とは暮
らしも言葉も異なる村人たちとコミュニケーションを取り、信頼関係を作る事は容易ではあり
ませんでした。私たちは繰り返し現地を訪問す
ることにより、信頼関係を作り、今ではカラチ
にいても相談事などで頻繁に連絡をくれていま
す。

アル・カイールスタッフの
アサドさんへのインタビューより

フォト ギャラリー

چلنا
♪

チャルナー
歩く



カラチ市内の夜道



アル・カイールアカデミー第2分校(カチラクンディ)の校舎の上

左:アル・カイールアカデミースタッフ 右:JFSA事務局



カチラクンディ(カラチ市のごみ捨て場) 人々は野焼きしたごみの中から金属など集めて生計を立てている



シンド州ダドーの農村

【タイ派遣報告】 海外事業担当事務局 田邊 航太郎

派遣期間：2025年2月11日～18日

1月23日にJFSAを出発したコンテナは、当初2月11日にタイに到着する予定でしたが、中国の春節と時期が重なったこともあつたため大幅に遅れ、2月23日到着予定となりました。

また、販売先の業者とのミーティングについても、本人のタイ入国ビザ取得が思うように進まなかつたために会うことができませんでした。どちらもP&Jカンペニー代表のカユーム氏が進めるケット調査についてですが、「ちらはまず大まかな全体像から確認していきたいと思います。

私たちJFSAの古着等は、多くの皆様の協力によってセンターに集められます。そこで、輸出用はパキスタン向け(毛布、タオル、冬物衣料等)、タイ向け(バッグ、靴、ぬいぐるみ、夏物衣料等)に仕分け、それぞれに輸出します。全体で見ると、このように仕分けして輸出されるだけでなく、仕分けせず輸出されている場合も多くあります。これらは《ミックス》と呼ばれています。日本、アメリカ、ヨーロッパ等から輸入したミックスを、

需要のある国や地域に向けて仕分けして輸出する事業が、パキスタンやマレーシアで多く行なわれています。

そのうちパキスタンからの輸出先は主にアフリカ諸国だそうです。JFSAの古着等は、冬物衣料の割合が高いことやサイズが合わない等の理由からアフリカ向けでは需要が見込まれないそうです。そのため、JFSAがミックスで送るとしたらマレーシアが向いているそうです。アル・カイールアカデミーへの利益を最優先に考えると、国内での仕分けの手間や時間の短縮はそれにつながります。JFSAからのミックスでの輸出は、将来的に選択肢として考えていく必要があります。

タイでは、安価な中古衣料として仕分けされた衣類やそれ以前のミックス、また高価なヴィンテージ品など、あらゆる中古衣料がマーケットにあります。こうした状況の中で、JFSAとP&Jカンペニーは連携して利益を生み出せるよう取り組んでいます。



パキスタンで仕分けされる《ミックス》



タイでヴィンテージ品を検品するバヌーンさんはビルマからの出稼ぎ



日本から輸出されたリサイクル品を販売するタイのお店



JFSAの衣類が並ぶパキスタンの倉庫で、P&J代表のカユーム氏と

また近年の日本の古着ブームのようなファッショントとしての流通も、それらのミックスから仕分けられ行なわれています。日本、タイ、アメリカ、イギリス、フランスなどでは、安価な中古衣料としてではなく、過去に特定のブランドやメー

カーなどが製造した一部の衣類を高価なヴィンテージ品として取り扱っています。こうした情報はスマートフォンによって簡単に入手することができます。それらを取り扱う事業者はここ数年で急増しています。



第88回コンテナ送り出し&到着報告 パキスタン

2024年11月21日積み込み 積み込み重量: 23,000KG 横浜港出港: 11月29日
2025年2月2日 古着卸業者ニアーズ氏の倉庫に荷下ろし

積み込みには千葉ダルク、あうん、オイシックス・ラ・大地、パルシステム千葉組合員、個人の方など約40名の協力がありました。千葉センターの「軒先市」（毎月第二土曜日開催）に出店している「カレー食堂まほろば」のご夫妻も参加され、パキスタンカレーの調理などをお手伝いいただきました。店のお客様のご夫妻は中学生の息子さんと一緒に参加されました。息子さんは始めは重い荷物を持つのにぎこちない様子でしたが、周りの大人たちに励まされながら率先して荷物を運んでくれて、最後はとてもいい表情をしていたのが印象的でした。今回はパキスタンで需要のある毛布2,100KGや、リネンリース会社様から寄贈された羽毛布団3,100KGを積み込みました。

2025年1月19日にパキスタンのカラチ港に到着したコンテナは、P & Jカンパニーから卸業者ニアーズ氏に販売され、2月2日にニアーズ氏の倉庫に荷下ろしされました。今回は1KG当たり185ルピーでニアーズ氏に売り渡し、売上は425万5,000ルピー（約234万250円/1ルピー=0.55円）でした。約7割がパキスタン国内、残りはアフガニスタンで販売されるそうです。



パキスタンカレーの調理



荷物を運ぶお父さんと中学生



コンテナ積み込み後の集合写真



ボランティアの淑徳大学生と男性(右より3名)



荷下ろしをする荷役労働者

ニアーズ氏(右)の倉庫で荷下ろしされたコンテナ
荷役労働者とP&Jカンパニーのカユーム氏(中央)

第89回コンテナ送り出し&到着報告 タイ

2025年1月23日積み込み 積み込み重量: 17,184KG 横浜港出港: 2月9日
2025年2月26日 タイ・アランヤプラテート 古着卸業者WASアリ・シャー氏倉庫到着

タイで中古女性衣料が供給過多のために売れづらい状況があり、タイ向けにしていた女性半袖・長袖ブラウス・Tシャツ、女性スラックスなど9品目をパキスタン向けに変更しました。そのため、2024年内に計画していた送り出しを年明けに延期しました。積み込みには千葉ダルク、あうん、オイシックス・ラ・大地、パルシステム千葉組合員、淑徳大学生、千葉県ボランティアポータルサイトより参加者、個人の方など約20名の協力がありました。タイで需要の高いバッグ、靴、ぬいぐるみ、男性衣料（半袖Tシャツ、長袖シャツ等）、ワンピースを中心に積み込みました。

横浜港出港が遅れたためコンテナは2月23日にタイラッカバン港に到着、2月26日にカンボジア国境の街アランヤプラテートにあるWASの倉庫に移動しました。カユーム氏はコンテナ到着前にアランヤプラテートに入り、マーケットの小売・卸売店を回って「今度日本からコンテナが届きます。いかがですか？」と営業活動を行なったそうです。その甲斐があり、コンテナ到着に合わせて何組も買い付け業者が倉庫を訪れ、荷物の約9割を初日で販売することができたと連絡をもらいました。JFSAの品物では特にバッグ、靴、ぬいぐるみ、アクセサリーが現地で需要が高いそうです。

『つながり』

東葛センター担当事務局 古田 真大

東葛センターの古田です。【k a p r e】と力 プ レ

いうお店で働き始めて、4月で丸3年が経ちます。長いようで短い楽しい時間でした。現在JFSAの一員として古着販売をメインに活動を行なっています。

JFSAに加入した当初は、古着の販売とペキスタン支援が点と点でつながりませんでした。自分自身が、どのような形でペキスタンを支援することができているのか理解できていませんでした。そんな中での2年目の冬にタイ派遣、3年目の冬にペキスタン派遣を通じて、どんなことを感じて来たのかをお話しえきればと思います。

JFSAはP&Jカンパニーと連携して日本で回収した皆さんの古着をペキスタンやタイで販売し、そのお金の一部を支援金としてアル・カリルアカデミーに寄付しています。また、千葉センターと東葛センターで販売している、ペキスタンやタイで仕入れた古着代金の一部は間接的にペキスタンの学校の支援金になっています。



右から 入江・古田(JFSA事務局)、古着卸売業者ニアーズ氏ザヒドさん・アサドさん(P&Jカンパニー)/2月のパキスタン派遣

私は人と関わることが大好きです。仕事をして好きなお話しすることも大好きです。お客さんと

輸入古着の仕入れを行なうまでは、ただただ物(古着)を販売する」とが仕事という認識でした。今自分がしていることにどれだけの人が関わっているのか考えてみると、会員・支援メンバーの方、お客様、古着のディーラーさんなどたくさんの方が関わっていることに派遣を通じて気づきました。

パキスタンでは学校で楽しく過ごしていました。生徒たちの顔を見て幸せな気持ちになりました。みんながより良い暮らしができればと思いつたし、みんながより良い暮らしができればと思いました。どのような関わり方で、どんなことがJFSAとして活動していくのかを再確認していきたいと思います。

JFSAはP&Jカンパニーと連携して日本で回収した皆さんの古着をペキスタンやタイで販売し、そのお金の一部を支援金としてアル・カリルアカデミーに寄付しています。また、千葉センターと東葛センターで販売している、ペキスタンやタイで仕入れた古着代金の一部は間接的にペキスタンの学校の支援金になっています。私は人と関わることが大好きです。仕事をして好きなお話しすることも大好きです。お客さんと



ヴィンテージ品を買い付ける古田事務局(右)

2月のパキスタン派遣

「小部屋から大部屋へ」

国内事業担当事務局 大橋 紀子

倉庫内売り場の一角、12畳ほどの空間を新た

に店舗として拡張しました（前回の会報で、店内の一部を模様替えしている最中という）報告をしました）パキスタンのP&Jカンパニーから輸入したラグや絨毯類、刺繡タペストリー、その他スタッフのおすすめ商品を並べています。陳列も、倉庫内の整然とした様子とは雰囲気を変え、とても面白い空間になりました。

新しい空間はお客様にもとても好評で、ラグや絨毯類の売れ行きも好調です。開放的な倉庫内の売り場とは違い天井が低いため、入りづらさないかと心配していましたが、照明やディスプレイを工夫することで入りづらさは無さそうです。お客様が時間をかけてじっくり商品を見ている様子や、仲間同士でワイワイと試着する様子も見られます。「とても面白いですね」「落ち着く空間ですね」などと声をかけてくださる方もいます。特に売り場の名前を付けていなかったので、ねらい通りの場を作ることがで

きたと言えるでしょう。

リサイクルショップや古着屋が以前よりもメジャーになり、多くの方が利用する時代になりました。商品としては同じようなものを販売しているところや、もっと安く売っているところもたくさんあります。いろいろなお店がある中で、まずは来てもらい、面白いと思っていただければまたの来店につながるでしょう。そのためには、私たちスタッフが、面白い、楽しいと思

うチャルカバザールの魅力を、お客様にも伝わる形にし、共感してもらう、という」ところがとても大切です。しかし、現段階ではまだ十分に魅力を伝えきれていないと感じているため、そこが今のがんばる課題でもあります。

小部屋の模様替えは一段落したので、次の目標は全体的な模様替えです。秘密の小部屋から、秘密の大部屋へと改装を続けて行きます。自分が好きなお店は他の人には秘密にしておきたいという気持ちになりますが、それを通り越して、秘密にしておくのがもったいないくらい、積極的に友だちや家族に教えたくなるような場所を目指して！

会員・支援メンバーの方、古着を出してくださる方、アル・カイールアカデミー、P&Jカンパニーを繋ぐ場の一つであるJFSAのショップの存在を、より多くの方に知つてもらい、お買いい物をしていただけるよう、これからも頑張っていきます。



倉庫内売り場の奥を新たに店舗として拡張



「秘密の小部屋」のディスプレイ

第22回JFSA定期総会から

2024年11月28日(木)千葉市民会館4階会議室にて

◆出席者:113名(本人出席21名/委任状55名/書面議決書37名) ◆オブザーバー出席:5名

提案はすべて承認されました。ご協力ありがとうございました。監査報告書(議案書に掲載)をご紹介いたします。



定期総会会場 総会終了後、アル・カイルアカデミーとオンライン交流会を行ないました

私たち監事は2023年度(2023年10月1日から2024年9月30日)の当会の事業と活動および決算と会計諸表について10月29日に監査を実施いたしました。その結果、当会の事業と活動は総会の決定に基づいて滞りなく遂行され、決算と会計諸表は法令および定款に従い適正に処理されていることを確認いたしました。

2023年度は、3回の回収期間を設け、参加者はのべ14,854人、古着類の回収実績は年度計画の120トンの計画に対し約114トンの実績で計画を下回りました(計画比95%)。回収量の70%は協力団体から、そして会員・支援メンバーからの年間回収量は9.6%となりました。

しかし、2年連続の参加者・回収量減少から、今年度は、858人の参加者の増加、15.4トンの回収量増加に転じたことは、回収量の受付期間を延長する様々な工夫が結果につながっている事と評価いたします。

今年度はパキスタンへの輸出が再開され、タイへの輸出と合わせて5回の送り出しを行なうことが出来ました。輸出量は109.25トンとなりました。(前年度75.8トン)

輸出先での需要品目の調査に基づき、需要アイテムを振り分けたこと、また、調査の継続により、回収品目が52種類から74種類に増えたことは、輸出量の増加となり、アル・カイルアカデミーへの継続的、安定的な運営支援につながることと思います。

販売事業では、売上予算を達成することができました。国内回収古着と輸入古着の商品数割合の調整、店舗内のレイアウトの工夫に加え、SNSでの発信、割引クーポンの配信による集客と新規顧客およびリピーターの獲得につなげました。引き続き、売場の工夫や施策を行い来客増に向けて取り組んでいただきたいと思います。

事業全体では10期連続黒字を達成することが出来たことは大いに評価されるべきだと思います。回収品・輸出品の管理、PJ C・WAS(タイを拠点とする古着販売事業社)との連携による新たな輸出先の開拓など、さらなる事業の発展につながる取り組みに期待しています。

広報活動において、年3回発行される会報によるJFSAの活動報告は、会員がアル・カイルアカデミーの方々、この活動に関わる方々とのつながりを感じ、会員の活動への理解・協力・支援につながっています。また2022年のパキスタン洪水被災に対するカンパ活動にも大きな役割を果たしました。SNSにつながるQRコードを掲載することで、回収イベント、国内活動の状況が身近になりつつあります。今後も街商活動、協力団体イベント等での活動紹介・報告、SNSによる情報発信に取り組むことで、個人会員・支援メンバーの増加につながることを期待します。

今年度は、パキスタンへの輸出が再開されたこと、タイや新たな輸出先の開拓とニーズに合わせた輸出品目多様化への対応、各店舗・広報活動の創意工夫により、回収量が増加、安定した運営につながったと思います。また、人員体制、働き方などの見直しを継続し、活動を共にする仲間とのコミュニケーションを図りつつ、活発な交流活動を検討・実施していくことでJFSAの取り組みがさらに広く伝わることに期待しています。

役員、職員、会員の皆様や団体会員・支援メンバーの皆様が、JFSAの活動を通して、共感し合い、さらなる発展に邁進いたしました。

2024年10月29日 監事 熊谷浩二 増本綾子

■□2024年度(2024年10月~2025年9月)の正会員・支援メンバーを募集しています

NPO法人JFSAの会員は次の2種類です

- 会員(正会員)この法人の目的に賛同して入会した個人または団体
- 支援メンバー この法人の目的に賛同し、賛助の意思を持つ個人または団体

【2023年度 正会員 個人:166名・団体11 支援メンバー 個人:1165名・団体7】

●年会費(10月~翌年9月末)

個人:会員 5,000円 / 支援メンバー 2,000円

団体:会員 50,000円 / 支援メンバー 10,000円

●会費振込み口座(郵便振替)

番号:00160-7-444198 口座名:JFSA

※活動への寄付にも同じ口座がご利用できます(通信欄に「寄付」とお書き添え下さい)

会員・支援メンバーの方には、会報(年3回)、古着の回収のお知らせ(年3回)、サポートグッズ(年1回)をお送りします。
正会員の方には総会議案書(年1回)もお届けします。

◆JFSAの会報のバックナンバーをご覧いただけます◆

ホームページのトップページ中央

「会報(ニュースレター)」よりお進みください。

ご希望の方には郵送もできます。

◆会報についての感想やご意見をお気軽にお寄せください◆

JFSAまでメール・お手紙でお送りください。

jfsa@f3.dion.ne.jp



こちらのQRコードを読み取って
いただくとメール作成画面になります。